

県 宮^き 木^そ 曾^{いけ} 池 地 区 緊 急 防 災 工 事 計 画 書

(農地防災事業 (ため池整備事業))

滋 賀 県

目

第 1 章	目 的	1
第 2 章	地 域 及 び 地 積	1
第 1 節	地 域	1
第 2 節	地 積	1
第 3 章	現 況	2
第 1 節	気 象	2
1.	一 般 気 象	2
2.	特 殊 気 象	2
第 2 節	土 地 状 況	3
1.	地形、土壌及び侵食の程度	3
2.	土 地 分 類	3
3.	土地利用の状況	3
4.	土地所有の状況	4
第 3 節	水 利 状 況	4
1.	用 水 状 況	4
2.	排 水 状 況	6
3.	河 川 状 況	6
第 4 節	道 路 概 況	6
1.	道 路 概 況	6
2.	主要道路一覧表	6
第 5 節	地域農業の概況	7
1.	産業別就業人口	7
2.	経営耕地広狭別農家数及び 主副業別農家数	7
3.	動力農機具及び主要家畜頭数	7
4.	主要作物作付状況	8
5.	農業の動向	9
第 6 節	地域環境の概況	10

次

第 4 章	一 般 計 画	11
第 1 節	事業計画の要旨	11
1.	要 旨	11
2.	事業別面積	11
第 2 節	営農計画及び土地利用計画	11
第 3 節	用 水 計 画	12
1.	計画基準年	12
2.	計画かんがい方式	12
3.	計画用水系統	12
4.	計画用水量	12
5.	水 源 計 画	13
第 4 節	排 水 計 画	13
第 5 節	道 路 計 画	13
第 6 節	農用地造成計画	13
第 7 節	洪水調節計画	14
第 8 節	干 拓 計 画	14
第 9 節	農用地整備計画	14
第 10 節	老朽ため池改修計画	14
1.	洪水吐改修計画	14
2.	堤体補強計画	14
3.	取水施設改修計画	14
第 5 章	主 要 工 事 計 画	15
第 1 節	用 水 施 設	15
第 2 節	排 水 施 設	15
第 3 節	道路及び索道	15
第 4 節	農 用 地 造 成	15
第 5 節	洪水調節施設	15
第 6 節	干 拓 施 設	15
第 7 節	農用地整備施設	15

第 8 節	老朽ため池改修施設	16
1.	貯 水 池	16
2.	堤体補強施設	17
第 6 章	附 帯 工 事 計 画	18
第 7 章	工事の着手及び完了の予定時期	18
第 8 章	環境との調和への配慮	18
第 9 章	換地計画の概要	18
第 10 章	事業費の総額及び内訳	19
第 11 章	効 用	19
第 12 章	関 連 す る 事 業	20
第 13 章	現況・計画図面	20

第1章 目 的

木曽池（中池、下池）は、農業用ため池として重要な役割を担っているが、漏水によるパイピングの進行、地震時の堤体安定不足により、下流域の農地をはじめ、農作物、農業用施設、一般住宅及び公共施設に多大な洪水被害を及ぼす恐れがある。このほか、洪水吐、取水施設も防災施設としての機能が低下している。

したがって、堤体、洪水吐及び取水施設を一体的に改修し、洪水被害を未然に防止することで、地域の農業生産、生活環境の防災、減災を図る。

第2章 地域及び地積

第1節 地域

(第1表)

事業名	地域	備考
ため池等整備事業 (農村地域防災減災事業)	滋賀県 犬上郡 多賀町 木曽地内	—

第2節 地積

令和 5 年 3 月現在 (第2表)

事業名	現況地目	田	普通畑	樹園地	小計	山林	原野	池沼	計	備考
	市町村名	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	
ため池整備	多賀町	16.0	—	—	—	—	—	—	16.0	「地積」は受益図 (S=1:2,500) 図測による
計		16.0	—	—	—	—	—	—	16.0	—

第3章 現 況

第1節 気象 多賀町
1 一般気象

(第3表-1)

観測所名	彦根	かんがい期	非かんがい期	計又は平均	備考
観測期間	明治5年～令和4年	4月～9月	10月～3月		
平均気温		21.5℃	8.6℃		
降水量	平均	951mm	659mm	1,610mm	
	基準年	894mm	533mm	1,427mm	令和4年
降水日数	平均	62日	69日	131日	
	基準年	105日	87日	192日	令和4年
根雪期間	—月—日～—月—日(—日間)				
無霜期間	4月4日～11月26日(237日間)				
最多風向	北西	最大風速(風向き)(m/s)		46.2(南東)	H.30.9.4

2 特殊気象

(第3表-2)

観 測 所 名		第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位			備 考
彦根																	
観 測 期 間		数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	
明治5 年～ 令和4 年																	
最 大 日 雨 量	(mm)	597	M. 29. 9. 7		200. 0	H. 29. 10. 22		195. 8	S. 34. 9. 26		181. 0	S. 47. 9. 16		177. 5	H. 30. 7. 5		
最 大 連 続 雨 量	(mm)	1, 008	M29. 9. 4 ～ M29. 9. 12		409	S40. 6. 26 ～ S40. 7. 15		388	S36. 6. 23 ～ S36. 7. 1		343	S9. 9. 23 ～ S9. 9. 27		323	M37. 9. 16 ～ M37. 9. 21		
最大連続干天日数	(日)	28	H12. 8. 3 ～ H12. 8. 30		27	T12. 7. 26 ～ T12. 8. 21		27	S20. 7. 27 ～ S20. 8. 22		25	M37. 8. 2 ～ M37. 8. 26		25	S58. 5. 18 ～ S58. 6. 11		

第2節 土地状況

1. 地形、土壌及び浸食の程度

令和 5 年 3 月現在 (第4表-1-1)

事業名	地 目	田 (ha)						畑・その他 (ha)							受益地標高(m)		備考	
	傾 斜 区 分	1/1000	1/1000	1/100	1/20	1/11.5	計	3° 以下	3° ～ 8°	8° ～15°			15° ～ 20°	20° 以上	計	最高		最低
		以下	～ 1/100	～ 1/20	～ 1/11.5	～ 以上				8° ～ 10°	10° ～ 15°	小計						
ため池等整備事業 (農村地域 防災減災事業)	面積 (ha)	-	16.0	-	-	-	16.0	-	-	-	-	-	-	-	-	123.00	117.00	-
	比率 (%)	-	100%	-	-	-	100%	-	-	-	-	-	-	-	-			
合 計	面積 (ha)	-	16.0	-	-	-	16.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	比率 (%)	-	100%	-	-	-	100%	-	-	-	-	-	-	-	100%			

受益図 (S=1:2,500) 図測による

土壌

令和 5 年 3 月現在 (第4表-1-2)

項 目 土壌統(区)名	土 壌 統 (区) 区 分 一 覧 表 面 積 (ha)													備考
	土 壌 断 面							堆積様式	母材	事業名				
	色	腐植	礫層	土 性			泥炭層黒泥 層及び グライ層			農村地域防 災減災事業	－	－	計	
				表 土	下 層 土									
				一 層	二 層	三 層								
灰褐色土壌壤土型	灰褐	なし	なし	CL	L	CL	なし	水積	非固結水 成岩	16	－	－	16	－
計	－	－	－	－	－	－	－	－	－	16	－	－	16	－

2. 土地分類 該当なし

3. 土地利用の状況

令和 5 年 3 月現在 (第4表-3)

事業名	土地利用別 市町村別	耕 地								山 林		採 草 放 牧 地	原 野	そ の 他	計
		水 田		普 通 畑	牧 草 畑	果 樹 園	桑 園	茶 園	そ の 他 樹 園 地	用 材 林	薪 炭 林				
		1毛作田 (ha)	2毛作田 以上 (ha)												
ため池等整備事業 (農村地域防災減災 事業)	多賀町	16.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16.0
合 計		16.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16.0

4. 土地所有の状況

(第4表-4)

事業名	所有別 区分	個人有地等	国有地	県有地	市有地	計	備考
ため池等整備事業 (農村地域防災減災事業)	面積 (ha)	-	-	-	-	-	-
	受益者数 (人)	-	-	-	-	-	-
	筆数 (筆)	-	-	-	-	-	-
	権利関係	所有権	-	-	-	-	-
	備考 (関係戸数)	-	-	-	-	-	-
合計	面積 (ha)	-	-	-	-	-	-
	受益者数 (人)	-	-	-	-	-	-
	筆数 (筆)	-	-	-	-	-	-
	権利関係	所有権	-	-	-	-	-
	備考 (関係戸数)	-	-	-	-	-	-

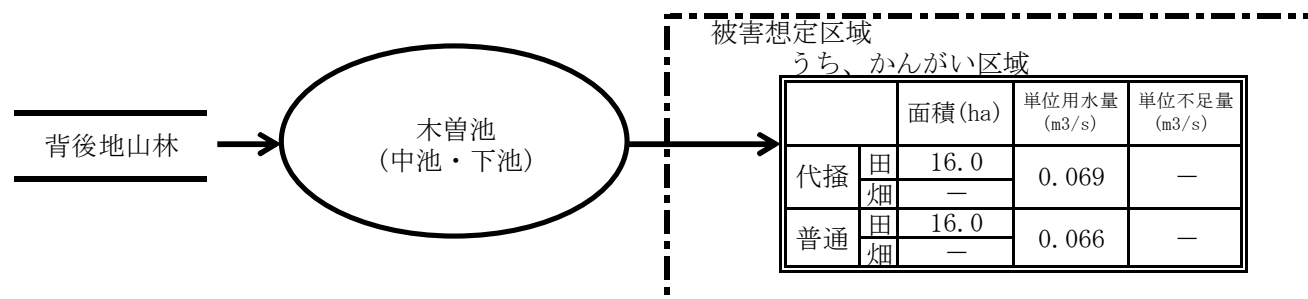
第3節 水利状況

1. 用水状況

木曽池（中池・下池）の貯水は、自流域からの流入のみである。農地へのかんがい用水は、下流域の農業用排水路（開水路）を通じて取水されている。

(1) 用水系統

現況用水系統図



凡	例		
	被害想定区域	25.9	ha
	かんがい区域	16.0	ha
	集水区域	13.3	ha
	池貯水量	10,700	m3

※集水面積は下池地点の集水面積。

(2) 用水施設
(ア) 取水方法一覧表

(第5表-1)

事業名	項 目 施設名	か ん が い 面 積						計		許 可 水 利 権		慣 行 水 利 権		延べ取水量		備 考
		500ha以上		500ha～100ha		100ha未満										
		(箇所)	(ha)	(箇所)	(ha)	(箇所)	(ha)	(箇所)	(ha)	(箇所)	(m3/s)	(箇所)	(m3/s)	(箇所)	(m3/s)	
ため池等整備事業	貯 水 池	-	-	-	-	2	16.0	2	16.0	-	-	-	-	2	0.069	
	井 堰	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	自 然 取 入 口	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	揚 水 機	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	そ の 他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	計	-	-	-	-	2	16.0	2	16.0	1	-	-	-	1	0.069	
合 計		-	-	-	-	2	16.0	2	16.0	1	-	-	-	1	0.069	

(イ) 改修を要する施設一覧表

(第5表-2)

事業名	項 目 施設名	施 設 名 又 は 箇 所 数 (箇所)	受 益 面 積 (ha)	構 造	規 模	新 設 年 又 は 更 新 年	改修を必要とする理由	備 考
ため池等整備事業	貯水池（中池）	1	16.0	均一型	堤高 10.0m 堤長 50m	昭和初期	耐震性不足により、決壊の恐れがある。	規模はため池台帳
	貯水池（下池）	1	16.0	均一型	堤高 10.0m 堤長 70m	昭和初期	耐震性不足により、決壊の恐れがある。	規模はため池台帳
	井 堰	-	-	-	-	-	-	
	自 然 取 入 口	-	-	-	-	-	-	
	揚 水 機	-	-	-	-	-	-	
	用 水 路	-	-	-	-	-	-	
	そ の 他	-	-	-	-	-	-	
	計	1	16.0	-	-	-	-	
合 計		1	16.0	-	-	-	-	

- (3) 用水に関する被害状況
 (ア) 用水不足による被害状況

該当なし

- (イ) その他の被害状況

該当なし

- (4) ため池決壊の場合の想定被害状況

(第5表－3－3)

事業名	想定被害面積 (ha)				想定被害額 (千円)					備考
	田	畑	その他	計	農業資産 (農作物・農地)	農業資産 (農業用施設)	公共資産	一般資産	計	
ため池等整備事業 (農村地域防災減災事業)	17.5	0.9		18.4	3,262	78,503	-	423,691	505,456	—
合 計	17.5	0.9		18.4	3,262	78,503	-	423,691	505,456	—

2. 排水状況

該当なし

3. 河川状況

該当なし

第4節 道路概況

該当なし

第5節 地域農業の概況

1. 産業別就業人口 多賀町

(第7表-1)

項 目 市町村名	総数 (人)	農業 (人)	林業 (人)	漁業 (人)	鉱業 (人)	建設業 (人)	製造業 (人)	電気 ガス 熱供給 水道業 (人)	運輸 通信業 (人)	卸売業 小売業 飲食店 (人)	金融業 保険業 (人)	不動産 業 (人)	サービ ス業 (人)	公務 (人)	その他 (人)	備考
多賀町	3,389	121	19	-	2	248	1,070	9	242	411	39	21	885	100	222	
合計	3,389	121	19	-	2	248	1,070	9	242	411	39	21	885	100	222	
比 率 (%)	100.0	3.6	0.6	-	0.1	7.3	31.6	0.3	7.1	12.1	1.2	0.6	26.1	3.0	6.6	

(出典: 令和2年国勢調査)

2. 経営耕地広狭別農家数及び主副業別農家数

(第7表-2)

区分 市町村名	農家 総戸数 (戸)	経営耕地広狭別農家数 (戸)											1戸当り平均 農用地面積(ha)						主副業別 農家数(戸)			備 考
		0.3 ha 未満	0.3 ～ 0.5 ha	0.5 ～ 1.0 ha	1.0 ～ 1.5 ha	1.5 ～ 2.0 ha	2.0 ～ 3.0 ha	3.0 ～ 5.0 ha	5.0 ～ 10.0 ha	10.0 ～ 20.0 ha	20.0 ha 以上	自 給 的 農 家	田	畑	樹 園 地	小 計	草 地	計	主 業	準 主 業	副 業	
多賀町	281	3	48	60	22	10	11	13	7	7	2	98	2.0	0.2	0.1	2.3	1.5	3.8	5	19	257	—
合計	281	3	48	60	22	10	11	13	7	7	2	98	2.0	0.2	0.1	2.3	1.5	3.8	5	19	257	—
比率 (%)	100.0	1.1	17.1	21.4	7.8	3.6	3.9	4.6	2.5	2.5	0.7	34.9	52.6	5.3	2.6	60.5	39.5	100.0	1.8	6.8	91.5	—

(出典: 2020年農林業センサス)

3. 動力農機具及び主要家畜頭数

(第7表-3)

項 目 市町村名	動力農機具						主要家畜								備考
	トラクター		動力田植機		コンバイン		乳用牛		肉用牛		豚		採卵鶏		
	数量 (台)	経営体数 (経営体)	数量 (台)	経営体数 (経営体)	数量 (台)	経営体数 (経営体)	数量 (頭)	経営体数 (経営体)	数量 (頭)	経営体数 (経営体)	数量 (頭)	経営体数 (経営体)	数量 (百羽)	経営体数 (経営体)	
多賀町	297	260	261	246	283	259	X	1	X	1	—	—	—	—	総経営体数 767 経営体
合計	297	260	261	246	283	259	0	1	0	1	0	0	0	0	総経営体数 767 経営体
100経営体当り数量	114台		106台		109台										—
利用経営体の割合 (%)	34%		32%		34%										総経営体数 767 経営体

※「X」は秘密保持の項目

(出典: 2010年世界農林業センサス、2020年農林業センサス)

4. 主要作物作付状況

(第7表-4)

市 町 村 名	多賀町		計	平均	作 付 率 (%)	備 考
総 耕 地 面 積 (ha)	488		(488)			
総 本 地 面 積 (ha)	—					
区 分 作 物 名	作付面積 (ha)	単位面積 当り収量 (kg/10a)	作付面積 (ha)	単位面積 当り収量 (kg/10a)		
水稲	234	505	234	505	58%	<出典> 耕地面積及び本地面積 第63次(R2～3) 近畿農林水産統計年報 作物別作付面積 2020年 農林業センサス 水稲の単位面積当たり収量 第63次(R2～3) 近畿農林水産統計年報
麦類	88	—	88	—	22%	
雑穀類	62	—	62	—	15%	
いも類	—	—	—	—	—	
豆類	11	—	11	—	3%	
工芸作物	—	—	—	—	X	
野菜類	7	—	7	—	2%	
花き類、花木	x	—	x	—	—	
その他の作物	x	—	x	—	—	
計	402	—	402	—	100%	
市町村別延べ作付率 (%)	100.0		100.0			

(「-」は事実のないもの)

5. 農業の動向

(第7表-5)

項目 区分	農 家			土 地			主要作物			主要家畜			動力農機具			地域指定等	備 考
		B	A		B	A	作物名	B	A	家畜名	B	A	農機具名	B	A		
変化の状況 C年を100とする指数	総農家数	76	57	耕地	98	94	水稻	100	94	乳用牛	X	X	乗用型 トラクター	62	-		A・・・ 令和2年 B・・・ 平成27年 C・・・ 平成22年
	主業 農家数	87	33	田	98	95	麦類	X	67	肉用牛	X	X	動力 田植機	85	-		
	準主業 農家数	64	31	普通畑	96	93	豆類	73	100	豚	-	-	コンバイン	68	-		
	副業的 農家数	78	62							採卵鶏	-	-					
	農業 従事者数																
変 化 の 理 由	総農家数は減少傾向にある。それに伴い、主業農家数、準主業農家、副業的農家も減少している。			農家数の減少に伴い、耕地面積も減少傾向である。農地の減少は、宅地等他地目への転用によるものである。			水稻はほぼ横ばいに推移している。豆類は横ばい傾向で、小規模な経営で維持されている。			小規模な経営が維持されている。			農家数の減少等により、保有台数は減少傾向と伺える。				

(出典：2010年世界農林業センサス、2015年農林業センサス、2020年農林業センサス)
 (「-」は調査は行ったが事実の無い項目「X」は秘密保持の項目)

第6節 地域環境の概況

鈴鹿山系北部の鍋尻山をはじめ、本町東部は、山地及び丘陵地を構成しており、良好な自然環境を有する。また、東部丘陵地をはじめ、芹川の清流が広がる自然の宝庫となっている。

①特に配慮すべき生物環境

木曽池の環境調査で確認された希少種等の配慮すべき生物は、以下のとおりである。

- 1) ニホンアカガエル（両生類 レッドデータ：要注目種）
- 2) カワヨシノボリ（魚類 レッドデータ：要注目種）
- 3) オグマサナエ（昆虫類 レッドデータ：希少種）

②特に配慮すべき生物以外のもの（移動性のため）

- 1) ニホンザル（レッドデータ：要注目種）
- 2) ハルゼミ（レッドデータ：その他重要種）

第4章 一 般 計 画

第1節 事業計画の要旨

1. 要 旨

木曽池は、農業用ため池として重要な役割を担っているが、地震時の堤体安定不足により、下流域の農地をはじめ、農作物、農業用施設、一般住宅及び公共施設に多大な洪水被害を及ぼす恐れがある。このほか、洪水吐、取水施設も防災施設としての機能が低下している。

したがって、堤体、洪水吐及び取水施設を一体的に改修し、洪水被害を未然に防止することで、地域の農業生産、生活環境の防災、減災を図る。

2. 事業別面積

(第8表)

事業名 土地 利用 区分 事業目的	ため池等整備事業（農村地域防災減災事業）					そ の 他					合計
	田	畑	樹園地	その他	小計	田	畑	牧草地	その他	小計	
	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
ため池整備	16.0	－	－	－	16.0	－	－	－	－	－	16.0
計	16.0	－	－	－	16.0	－	－	－	－	－	16.0

受益図（S=1:2,500）図測による

第3節 用水計画

1. 計画基準年

—

2. 計画かんがい方式

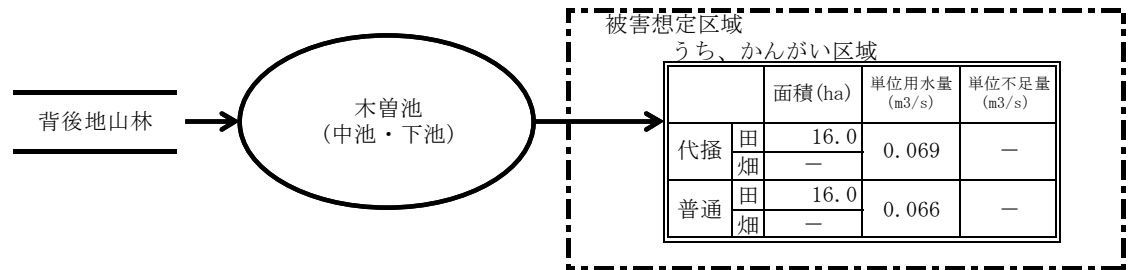
水田 湛水かんがい

3. 計画用水系統

木曽池（中池・下池）の貯水は、自流域からの流入のみである。農地へのかんがい用水は、下流地域の農業用排水路（開水路）を通じて取水されている。

(1) 用水系統

現況用水系統図



凡 例			
	被害想定区域	25.9	ha
	かんがい区域	16.0	ha
	集水区域	13.3	ha
	池貯水量	9,500	m3

※集水面積は下池地点の集水面積。

4. 計画用水量

(1) かんがい用水

(第9表-1)

項 目 系統名	種 別	面 積 (ha)			水 田 か ん が い			水 田 畑 利 用			畑 地 か ん が い			そ の 他		消費 水量	損 失 率	粗 用 水 量	
		事 業 名																	
		ため池 整備	－	計	代掻期 1日当 計画平均 減水深 (mm/日)	普通期 1日当 計画平均 減水深 (mm/日)	面 積 (ha)	1日当 計画平均 かん水深 (mm/日)	平均 間断日数 (日)	面 積 (ha)	1日当 計画平均 かん水深 (mm/日)	平均 間断日数 (日)	面 積 (ha)	計画 平均 単位 用水量 (mm/日)	面 積 (ha)			(m3/s)	(%)
木曽池 (中池・下池)	農業用水	16.0	－	16.0	130.0	30.5	16.0	－	－	－	－	－	－	－	－	0.081	15	0.066	0.069
計		16.0	－	16.0	130.0	30.5	16.0	－	－	－	－	－	－	－	－	0.081	15	0.066	0.069

(2) 営農飲雑用水

該当なし

5. 水源計画
 (1) 水利用計画
 該当なし

(2) 用水対策
 (ア) 貯水池

(第9表-3)

項 目 取水池名		流域面積 (km2)		受益面積 (ha)				純貯水量 (m3)	利用貯水量 (m3)	利用回数 (回)	最大取水量 (m3/s)	備 考
		直 接	間 接	ため池整備								
				田	畑	果樹園	計					
木曽池	中池	0.1330	—	16.0	—	—	16.0	8,300	8,300	1	0.069	—
	下池	0.1326	—	16.0	—	—	16.0	1,170	1,170	1	0.069	—

(イ) 井堰及び自然取入口
 該当なし

(ウ) 揚水機
 該当なし

(エ) 用水路
 該当なし

(オ) その他の水源施設
 該当なし

(3) 水温水質
 該当なし

第4節 排水計画

該当なし

第5節 道路計画

該当なし

第6節 農用地造成計画

該当なし

第7節 洪水調節計画
該当なし

第8節 干拓計画
該当なし

第9節 農用地整備計画
該当なし

第10節 老朽ため池改修計画
1. 洪水吐改修計画

項目 池名	計画洪水量 (m3/S)	洪水吐		減勢工		備 考
		型 式	幅(m)	型 式	幅(m)	
中池	3.7	正面越流式	8.1	Ⅲ型静水池	6	—
下池	3.9	正面越流式	8.1	三面張り水路	1.0	—

2. 堤体補強計画

項目 池名	法 面 勾 配		法 面 保 護 工				遮水・耐震対策工		備考
	上 流	下 流	上 流	数量	下 流	数量	工 法	数量	
中池	1 : 1.9	1 : 1.9	張りブロック	362m2	張芝	1134m2	前刃金工法:断面修正 (耐震対策:改良盛土)	堤長L=74.7m	—
下池	1 : 1.8	1 : 1.8	張りブロック	254m2	張芝	606m2	前刃金工法:断面修正	堤長L=64.1m	—

3. 取水施設改修計画（緊急放流施設）

項目 池名	緊急放流量 (m3/S)	斜樋又は底樋		緊急放流施設		備 考
		型 式	径(mm)	型 式	径(mm)	
中池	0.043	斜樋取水孔 φ 200mm×1孔 底樋ヒューム管 φ 800mm	200 800	取水孔を兼用	200	—
下池	0.007	縦樋取水孔 φ 200mm×1孔 底樋ヒューム管 φ 800mm	200 800	取水孔を兼用	200	—

第5章 主要工事計画

第1節 用水施設
該当なし

第2節 排水施設
該当なし

第3節 道路及び索道
該当なし

第4節 農用地造成
該当なし

第5節 洪水調節施設
該当なし

第6節 干拓施設
該当なし

第7節 農用地整備施設
該当なし

第8節 老朽ため池改修施設

1. 貯水池

1) 中池

(第15表)

名 称		木曽池(中池・下池)			位 置		滋賀県犬上郡多賀町木曽地内			
堤 体	型 式	流 域 (km2)	堤 高 (m)	堤 長 (m)	堤 体 積 (m3)	堤 頂 幅 (m)	貯 水 量 (m3)	備 考		
	傾斜遮水ゾーン型	0.133	6.4	74.7	9.4	3.8	16,251	耐震化・漏水対策		
洪 水 吐	型 式	洪 水 量 (m3/s)	規 模 (m)	備 考	取 水 施 設	型 式		取 水 量 (m3/s)	備 考	
	正面越流型	3.7 (洪水吐能力)	越流幅=8.1m 越流水深=0.37m	更新		斜樋取水孔φ200mm×1孔 底樋ヒューム管 φ800mm		0.069	更新	
						緊急放流施設	型 式		緊急放流量 (m3/s)	備 考
							取水孔を兼用		0.043	新設

2) 下中池

(第15表)

名 称	下池			位 置	滋賀県犬上郡多賀町木曾地内					
堤 体	型 式	流 域 (km2)	堤 高 (m)	堤 長 (m)	堤 体 積 (m3)	堤 頂 幅 (m)	貯 水 量 (m3)	備 考		
	傾斜遮水ゾーン型	0.1326	3.4	64.1	2.2	2.0	1,170	漏水対策		
洪 水 吐	型 式	洪 水 量 (m3/s)	規 模 (m)	備 考	取 水 施 設	型 式		取 水 量 (m3/s)	備 考	
	正面越流型	3.9 (洪水吐能力)	越流幅=8.1m 越流水深=0.40m	更新		堅樋取水孔φ200mm×1孔 底樋ヒューム管φ800mm		0.069	更新	
						緊急放流施設	型 式		緊 急 放 流 量 (m3/s)	備 考
							取水孔を兼用		0.007	新設

2. 堤体補強施設

(1) のり面保護

1) 中池

位 置	種 類	工 法	数 量
上流側	制波工	張りブロック	堤長L=74.7m
下流側	法面保護	張芝	堤長L=74.7m

2) 下池

位 置	種 類	工 法	数 量
上流側	制波工	張りブロック	堤長L=64.1m
下流側	法面保護	張芝	堤長L=64.1m

(2) 耐震・漏水対策

1) 中池

位 置	種 類	工 法	数 量
上流側	耐震・漏水対策	傾斜遮水ゾーン型 改良土盛土	堤長L=74.7m
下流側	耐震対策	改良土盛土	堤長L=74.7m

2) 下池

位 置	種 類	工 法	数 量
上流側	漏水対策	傾斜遮水ゾーン型	堤長L=64.1m
下流側	—	—	—

第6章 附帯工事計画

該当なし

第7章 工事の着手及び完了の予定時期

1. 工期
着工 令和 7 年度 完了 令和 10 年度（予定）

2. 工事の年度割予定

		令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	備考
測量・調査・設計等						
中池	堤体工					
	洪水吐工					
	取水施設工					
下池	堤体工					
	洪水吐工					
	取水施設工					

第8章 環境との調和への配慮

- (1) 配慮の対象
 - 1) ニホンアカガエル（両生類 レッドデータ：要注目種）
 - 2) カワヨシノボリ（魚類 レッドデータ：要注目種）
 - 3) オグマサナエ（昆虫類 レッドデータ：稀少種）
- (2) 配慮の方法
 - 1) ニホンアカガエル（両生類）～産卵に必要な浅い止水域の確保
 - 2) カワヨシノボリ（魚類）～工事期間中も含め、退避できる水域の確保
 - 3) オグマサナエ（昆虫類）～ヤゴが生息できる水域を残し、羽化時に必要な緩傾斜の水際の確保

第9章 換地計画の概要

該当なし

第10章 事業費の総額及び内訳

1) 中池 (第16表)

事業名 区 分		ため池等整備事業 (農村地域防災減災事業) (千円)	備 考
事業費 ※1		180,400	補助対象事業費
事務的経費 ※2		9,000	—
計		189,400	—
関連 事業 (参考)	—	—	—
	—	—	—

2) 下池 (第16表)

事業名 区 分		ため池等整備事業 (農村地域防災減災事業) (千円)	備 考
事業費 ※1		103,300	補助対象事業費
事務的経費 ※2		5,000	—
計		108,300	—
関連 事業 (参考)	—	—	—
	—	—	—

(令和4年度単価。消費税については10%で算定。ただし、物価変動により将来変動することがある。)
※1…事業費とは土地改良事業に要する費用のうち、事務的経費を差し引いた費用。
※2…事務的経費とは昭和48年7月23日付け48構改D第609号(設)農林水産省構造改善局長通知により定められた事務費及び工事雑費。

第11章 効 用

(第17表)

項 目 区 分		農業用排水(用水)		備 考
		年 総 効 果 額 (千円)	年 総 増 加 所 得 額 (千円)	
食料の安定供給の 確保に関する効果	作物生産効果	4,812	5,407	
	品質向上効果	—	—	
	営農経費節減効果	△ 284	—	
	維持管理費節減効果	△ 193	—	
	営農に係る走行経費節減効果	—	—	
災害防止効果	農業資産	3,695	—	
	一般資産	19,151	—	
	公共資産	—	—	
その他効果	国産農産物安定供給効果	1,083	—	
計		28,264	5,407	

<参考>
① 当該事業費 : 245,575 千円
② その他費用 : 90,705 千円
③ 総費用 : 336,280 千円
④ 年償還額 : — 千円
④' うち機能向上分 : — 千円
⑤ 年総効果(便益)額 : 28,264 千円
⑥ 現況年総農業所得額 : 2,794 千円
⑦ 年総増加農業所得額 : 5,407 千円
⑧ 総便益額 : 580,798 千円
評価期間 : 44 年
割引率 : 0.04
総費用総便益比 (⑧÷③) : 1.72 ≥ 1.0
総所得償還率 (④÷⑥) : — % ≤ 20 %
増加所得償還率 (④' ÷⑦) : — % ≤ 40 %

第12章 関連する事業

該当なし

第13章 現況・計画図面

- | | | |
|---|----------|------|
| 1 | 現況・計画平面図 | 別途添付 |
| 2 | 主要構造図 | 別途添付 |